

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(GDP (IMF WEO)): <http://mylibrary.maeda1.jp/GDP.html>)

(MENA・イスラム圏: <http://mylibrary.maeda1.jp/MenaOicCountries.html>)

マイライブラリー:0500

(注)本稿は 2020 年 4 月 17 日から 26 日まで 5 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2019.4.28

前田 高行

大恐慌以来最悪の景気後退(The Great Lockdown):IMF 世界経済見通し 2020 年 4 月版

目次	頁
1. 2020/21 年の GDP 成長率	1
2. 前回(2019 年 10 月)と今回(2020 年 4 月)の比較	3
3. 2020年の世界及び主要国の GDP (Current Price)	4
4. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2017~2021年)	5

IMF(国際通貨基金)では毎年 4 月および 10 月に世界各国の経済見通し「World Economic Outlook Database (WEO)」を発表しており、今年 4 月版(以下 WEO2020Apr)がインターネット上に公開された。

* URL: <https://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2020/01/weodata/index.aspx>

ここでは 2017 年から 2021 年(予測)までの GDP(current price, ドル建て)を取り上げ、成長率については前回 2019 年 10 月版(以下 WEO2019Oct)¹と比較して世界と MENA 主要国の経済状況の変化を検証する。

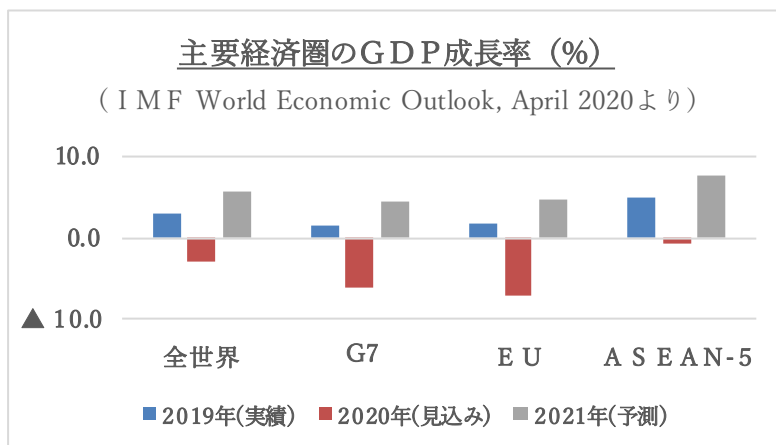
(ほぼすべての国・地域が大幅なマイナス成長に暗転！)

1. 2020/21 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-08 参照)

(1)全世界及び主要経済圏の GDP 成長率

(図 <http://menadabase.maeda1.jp/2-B-2-01.pdf> 参照)

IMF は今年(2020 年)の世界の GDP 成長率を▲3.0%と見込んでいる。次項に述べる通り昨年 10 月版では今年の成長率は+3.4%と予測していたのが一転してマイナス成長に転落している。これは言うまでもなく世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスにより、世界ベースで経済がマヒ状態に陥ったためである。IMF では 10 年前のリーマンショックをしのぐ 1929 年の大恐慌(The Great Depression)以来最悪の景気後退ととらえ、大ロックダウン(The Great Lockdown)と表現している²。



経済圏毎に見ると主要先進7カ国(G7)が▲6.2%、EUは▲7.1%、ASEAN5カ国は▲0.6%とされている。落ち込みはG7、EUなどの先進地域で激しく、東南アジア新興国のASEAN-5は現在までのところ傷は浅いように見える。

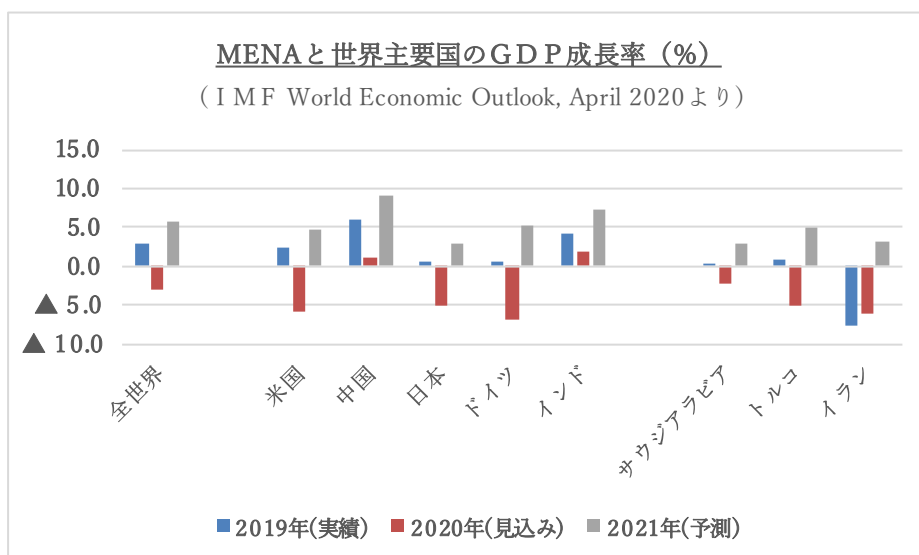
来年(2021年)は全世界の成長率は5.8%のプラスになると予測している。この数値は昨年10月の予測値3.6%を2%強上回っており、IMFは今年から来年にかけて景気がV字回復すると予測している。G7及びEUの来年の成長率はそれぞれ4.5%及び4.8%であり、プラス成長に転じるものの成長率は世界平均を下回ると見込んでいる。ASEAN5カ国は今年の▲0.6%から来年は一挙に7.8%と世界平均を上回る回復が予測され、世界経済の成長センターとしての活力を取り戻しそうである。

来年(2021年)は全世界の成長率は5.8%のプラスになると予測している。

(但し世界経済が好転あるいは悪化する要因は自然災害から社会的なものまで多岐にわたっており、現時点で将来を予測することは極めて難しく、IMFも長期予測には慎重なようである。このことは昨年10月及びそれまでの見通しでは5年先までの予測値を公表していたのに対し、今回は翌2022年までしか示していないことがその証左であろう。)

(GDP 大国の中で唯一プラス成長を維持すると見られる中国とインド！)

(2)主要国の GDP 成長率



世界及び中東主要国の昨年から来年まで3年間の成長率を見ると、まず目につくのは米国、日本をはじめほとんどの国が今年はマイナス成長になる見込みである。その中でプラス成長を続けると見られるのは中国及びインドの2カ国である。

る。

日本は昨年の0.7%から今年は▲5.2%のマイナス成長になるとIMFは予測している。日本は過

去 2 年間 1%以下という先進国の中でも比較的低い成長率にとどまっており、今年の見込み成長率(▲5.2%)はリーマンショック時の 2009 年(▲5.4%)に次ぐマイナス成長である。来年についてはプラス 3.0%の成長が見込まれている。但し 2011 年以来日本の成長率は 2%以下であり、3%成長を達成することは必ずしも容易ではなさそうである。

米国の場合、昨年実績はプラス 2.3%であったが、今年は一挙にマイナス 5.9%に落ち込むと見込まれる。これに対し来年は 4.7%成長に戻ると予測され、わずか 2 年間で 10.6%の大きな振幅がある。このような振幅は米国以外の各国でも見られる現象であり、IMF はコロナウィルス問題が終焉すれば世界経済が V 字回復すると見ているようである。

中国は昨年、6.1%の成長率を達成、インドとともに世界経済をけん引していたが、今年の成長率は 1.2%に留まる見込みである。なお中国国家統計局は今年 1-3 月期の GDP が前年同期比▲6.8%であったと発表しており、四半期の成長率としては記録上初めてである。IMF は中国の成長率が年間を通じてプラスに転じると見込んでおり、また来年は 9.2%の大幅な成長を予測している。4 月以降来年にかけての中国経済の推移が注目される場所である。

インドの今年の成長率は 1.9%と見込まれ中国と並ぶ数少ないプラス成長国である。また IMF は同国の来年の成長率を 7.4%と予測している。

MENA の主要国の 3 か年の成長率は、サウジアラビアが 0.3%(昨年)→▲2.3%(今年)→2.9%(来年)であり、トルコは 0.9%(昨年)→▲5%→5%、イラン▲7.6%(昨年)→▲6%→3.1%である。3 か国とも今年にはマイナス成長であり、来年はプラスに転じると予測している。イランはサウジアラビアと同じ産油国ではあるが、米国の経済制裁により昨年は▲7.6%のマイナス成長であった。今回のコロナウィルス問題でもイランは中東で最も大きな影響を受けており、二年連続で大幅なマイナス成長を強いられている。来年プラス成長に転じることができるか極めて厳しい状況に置かれている。

(すべての国と地域で今年にはマイナス下方修正、来年はプラス上方修正！)

2. 前回(2019 年 10 月)と今回(2020 年 4 月)の比較(末尾表 1-B-2-08 参照)

(1) 世界および主要経済圏の比較

上述のとおり今回(WEO2020Apr)の全世界の成長率見通しは今年(2020 年)が▲3.0%、来年(2021 年)は 5.8%である。これに対して前回(WEO2019Oct)の見通しでは両年の成長率はそれぞれ 3.4%、3.6%であり、本年は 6.4%に下方修正、来年は 2.2%に上方修正されている。

2020 年の見通しについて主要経済圏を前回と比較すると、G7 は前回の 1.6%から今回は▲6.2%に下落している。その他の経済圏についても EU(1.6%→▲7.1%)、ASEAN-5(4.9%→▲0.6%)といずれも大幅に下方修正されている。先進国、開発途上国のいずれもコロナウィルスの影響が顕著に表れている。

主要経済圏の来年(2021 年)の GDP 成長率の見通しについて前回と今回を比較すると今年とは

逆に全面的に上方修正されている。G7 は 1.4%→4.5%であり、ASEAN-5 は 5.2%→7.8%、EU は 1.7%→4.8%に見直されている。

(2)主要国の比較

今年の成長率については中国が前回(2019Oct)の 5.8%から今回(2020Apr)は 1.2%に、またインドは 7.0%から 1.9%に見直されている。両国とも下方修正されているものの、かろうじてプラス成長を維持している。しかしながらその他の国々は下方修正の結果すべてマイナス成長に転落している。

世界の主要国の今年の成長率は以下のとおりである。

米国(2.1%→▲5.9%)、日本(0.5%→▲5.2%)、ドイツ(1.2%→▲7.0%)、英国(1.4%→▲6.5%)、韓国(2.2%→▲1.2%)、ロシア(1.9%→▲5.5%)、

また中東の主要国の今年の成長率の見直しは以下のとおりである。

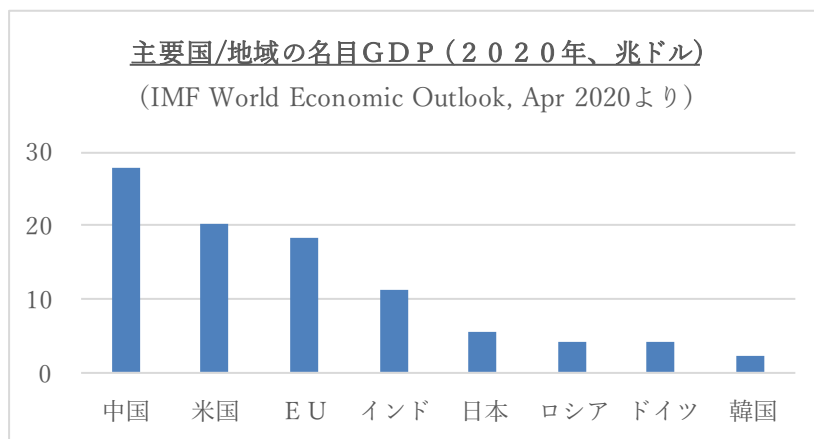
サウジアラビア(2.2%→▲2.3%)、トルコ(3.0%→▲5.0%)、UAE(2.5%→▲3.5%)、イラン(0%→▲6.0%)、イスラエル(3.1%→▲6.3%)、イラク(4.7%→▲4.7%)

一方 2021 年の成長率はいずれも上方修正されており、米国の場合は昨年 10 月に 1.7%と予測していた 2021 年の成長率が今回は 4.7%に大きく見直されている。日本も 0.5%(昨年 10 月予測)→3.0%(今回予測)とされており、その他の国々も中国(5.9%→9.2%)、ドイツ(1.4%→5.2%)、韓国(2.7%→3.4%)、ロシア(2.0%→3.5%)に上方修正されている。

中東諸国についても同様であり、サウジアラビア(2.2%→2.9%)、トルコ(3.0%→5.0%)、イラン(1.0%→3.1%)、イスラエル(3.2%→5.0%)へと見直されている。例外はエジプトであり、同国は前回の IMF レポートでは 2021 年の成長率を 6.0%と予測していたが、今回は 2.8%に下方修正されている。

(GDP トップに躍り出た中国！)

3. 2020年の世界及び主要国の GDP (Current Price)(末尾表 1-B-2-09 及び表 1-B-2-12 参照)



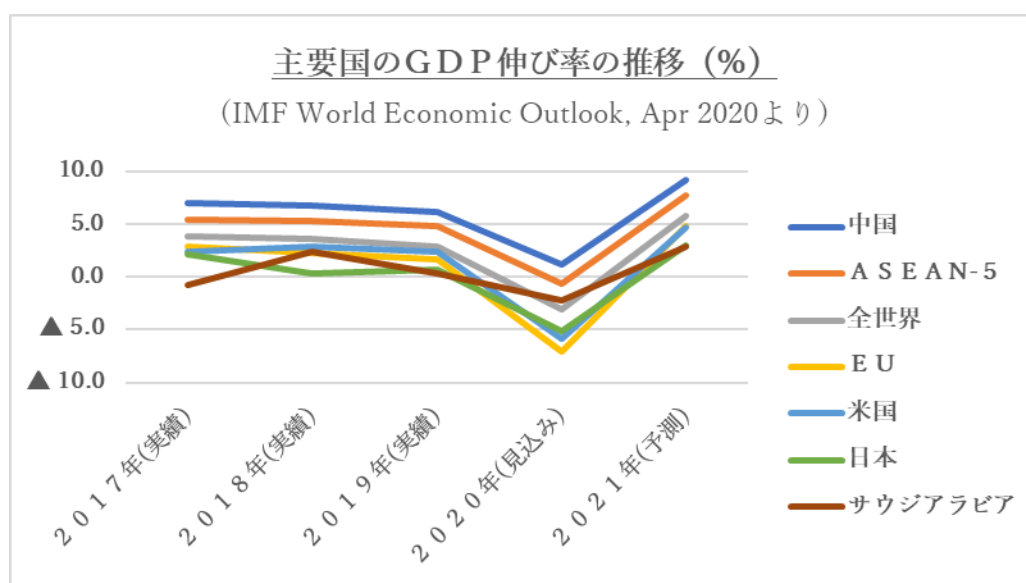
IMF によれば今年の世界の GDP(at Current Price)総額は138兆ドルの見込みである。このうち G7 は40兆ドルで全体の 29%を占め圧倒的な存在感を示している。EU の GDP 総額は18兆ドル(全世界の13%)、ASEAN5か国は8兆ドル(同6%)である。

国別では2020年の GDP の世界ベストテンは中国が世界トップ(28兆ドル)で全世界に占める割合は20%、同国一国だけで世界の GDP の5分の1を生み出している。中国に次ぐ GDP 大国は米国の20兆ドルであり世界全体の15%を占めている。前回までの統計では米国がトップであったが、今回中国にその座を譲っている。この2か国が世界で突出しており、今後米中間の経済摩擦が一層激しくなることは間違いないであろう。

第3位はインド(11兆ドル)で日本はこれに次ぐ世界第4位5.5兆ドルである。日本の GDP は中国の5分の1あるいは米国の3分の1にとどまっている。第5、6位はロシアとドイツ(ともに4.2兆ドル)であり、7位から10位にはインドネシア(3.8兆ドル)、ブラジル(3.3兆ドル)、英国(3兆ドル)、フランス(2.9兆ドル)の各国である。因みに EU の GDP は18兆ドルであり、世界第3位に相当する。

11位から20位まではメキシコ、韓国、トルコ、イタリア、サウジアラビア、カナダ、スペイン、エジプト、イラン及び台湾の各国である。中東諸国ではトルコが世界13位、サウジアラビアが世界15位、イランが世界19位にランク付けされている。このほかの中東諸国で世界上位に入っているのは UAE(世界34位)、イラク(同35位)、イスラエル(同53位)の各国である。

4. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2017~2021年)(末尾表 1-B-2-11 参照)



(世界の GDP 成長率、2017~19年まではプラス3%、今年は▲3%！)

(1) 世界および主要経済圏

世界全体の成長率は2017年から2019年までプラス3%前後で推移していたが、今年は▲3%に急落、来年は5.8%に回復すると IMF は予測している。

経済圏別で見ると G7 の成長率は2019年まで2%前後の成長を続けたのち、今年は▲6.2%と世界平均を大幅に下回るマイナス成長となり、来年はプラス4.5%に回復する見通しである。EU

は2017年の成長率が2.9%であったが、その後2.3%(18年)、1.7%(19年)と年々落ち込み、2020年はコロナウィルスの影響で世界平均の2倍以上の▲7.1%の大幅な落ち込みになる見込みである。IMFでは2021年は今年の反動で4.8%のプラス成長に転じると予測している。

ASEAN-5か国は他の経済圏に比べ高い成長率を達成している。同地域は2017年から19年まで5%前後の成長率を維持しており、2020年は他の地域と同様コロナウィルスの影響を免れないものの▲0.6%のマイナス成長にとどまると予測されている。来年についてはV字回復し7.8%の成長が見込まれている。

(5年間を通じてプラス成長を達成すると見られる中国及びインド！)

(2)世界と中東の主要国

日本の成長率は2017年は2.2%であったが、2018、19年はそれぞれ0.3%、0.7%の低い成長率にとどまった。2020年は▲5.2%の大幅なマイナス成長になり、2021年には一転して5年間で最も高い3%の成長が予測されている。3%は世界平均の5.8%、G7の4.5%に比べて決して高くないものの、過去の実績を勘案するとなお高いハードルと言えそうである。

米国の過去3か年の経済は先進国の中でも特に好調であり、2.3%~2.9%の成長を維持してきたが、今年(2020年)は▲5.9%と急落する見込みである。来年は今年の反動で4.7%の成長率を達成すると予測している。

世界最大のGDP大国になった中国は2017年から2019年まで6%台の成長を維持している。今年にはコロナウィルスの影響を受けるものの日米のようなマイナス成長にはならず、1.2%のプラス成長を達成すると見込まれている。来年は今年の反動として景気はV字回復し、9.2%の高い成長率を達成するものと予測される。近年中国を上回る成長を続けているインドのGDP成長率は、2017年以降2021年まで7.0%→6.1%→4.2%→1.9%→7.4%と今年を含めて5年間連続してプラス成長を達成する見通しである。

中東の主要国を見ると、GDPが中東で最大のトルコは2017年には7.5%と世界的にみても高い7.5%の成長率を記録している。その後の2年間は2.8%→0.9%と成長率が鈍化し、今年は▲5%のマイナス成長に陥る見通しである。来年は成長路線に回復すると見込まれる。

トルコに次ぐGDP大国のサウジアラビアは原油価格下落の影響を受けて2017年は▲0.7%のマイナス成長に陥ったが、2018年と2019年はプラス成長を達成している。しかし今年は▲2.3%に転落、来年は回復して2.9%のプラス成長に戻ると予測されている。

イランのGDP成長率は2017年に3.7%を達成したが、その後米国の広範な経済制裁の影響を受け、18年▲5.4%、19年▲7.6%さらに20年▲6.0%と3年続けてマイナス成長に苦しんでいる。IMFは同国が来年は3.1%のプラス成長に戻ると予測しているが予断を許さない状況である。

エジプトの成長率の推移は4.1%(17年)→5.3%(18年)→5.6%(19年)→2.0%(20年)→2.8%(21年)とされ、コロナウイルス問題の下でも安定した成長が見込まれている。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

MENAと世界主要国のGDP実質成長率(2020-21年)

国名	2020年4月見通し(今回)			2019年10月見通し (前回)		前回/今回比較	
	2020年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)	増減	2020年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)	2020年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)
全世界	▲ 3.0	5.8	8.8	3.4	3.555	▲ 6.4	2.2
G7	▲ 6.2	4.5	10.7	1.6	1.442	▲ 7.8	3.0
EU	▲ 7.1	4.8	11.9	1.6	1.661	▲ 8.8	3.1
ASEAN-5	▲ 0.6	7.8	8.4	4.9	5.172	▲ 5.5	2.6
米国	▲ 5.9	4.7	10.6	2.089	1.746	▲ 8.0	3.0
中国	1.2	9.2	8.0	5.819	5.9	▲ 4.6	3.3
日本	▲ 5.2	3.0	8.2	0.466	0.453	▲ 5.6	2.6
ドイツ	▲ 7.0	5.2	12.1	1.247	1.439	▲ 8.2	3.7
英国	▲ 6.5	4.0	10.5	1.448	1.543	▲ 8.0	2.5
インド	1.9	7.4	5.6	7.033	7.442	▲ 5.2	▲ 0.0
韓国	▲ 1.2	3.4	4.6	2.218	2.748	▲ 3.4	0.7
ロシア	▲ 5.5	3.5	9.0	1.87	2.045	▲ 7.3	1.5
サウジアラビア	▲ 2.3	2.9	5.2	2.184	2.22	▲ 4.5	0.7
トルコ	▲ 5.0	5.0	10.0	2.986	2.998	▲ 8.0	2.0
UAE	▲ 3.5	3.3	6.8	2.515	2.723	▲ 6.0	0.6
イラン	▲ 6.0	3.1	9.1	0.046	0.988	▲ 6.0	2.1
イスラエル	▲ 6.3	5.0	11.3	3.069	3.16	▲ 9.4	1.8
エジプト	2.0	2.8	0.9	5.868	5.955	▲ 3.9	▲ 3.1
イラク	▲ 4.7	7.2	11.9	4.676	3.727	▲ 9.4	3.5

2020年 GDP at Current Price(2020年4月値)

(単位:10億ドル)

国名	2020年	%	2019年	増減	増減率(%)
全世界	138,352	100.0%	142,006	▲ 3,653	-2.6%
G7	39,780	28.8%	42,167	▲ 2,387	-6.0%
EU	18,377	13.3%	19,663	▲ 1,286	-7.0%
ASEAN-5	8,212	5.9%	8,218	▲ 6	-0.1%
米国	20,290	14.7%	21,428	▲ 1,138	-5.6%
中国	27,805	20.1%	27,307	498	1.8%
日本	5,451	3.9%	5,712	▲ 260	-0.9%
ドイツ	4,161	3.0%	4,444	▲ 283	-5.2%
英国	2,976	2.2%	3,162	▲ 187	-4.5%
インド	11,321	8.2%	11,043	278	9.3%
韓国	2,308	1.7%	2,320	▲ 13	-0.1%
ロシア	4,176	3.0%	4,390	▲ 214	-9.3%
サウジアラビア	1,869	1.4%	1,901	▲ 32	-0.8%
トルコ	2,258	1.6%	2,362	▲ 104	-5.6%
UAE	723	0.5%	744	▲ 21	-0.9%
イラン	1,411	1.0%	1,491	▲ 80	-11.1%
イスラエル	335	0.2%	355	▲ 20	-1.4%
エジプト	1,427	1.0%	1,391	36	10.8%
イラク	679	0.5%	708	▲ 29	-2.0%

GDP 対前年伸び率(%、2020年4月値)

国名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
全世界	3.9	3.6	2.9	▲ 3.0	5.8
G7	2.3	2.0	1.6	▲ 6.2	4.5
EU	2.9	2.3	1.7	▲ 7.1	4.8
ASEAN-5	5.4	5.3	4.8	▲ 0.6	7.8
米国	2.4	2.9	2.3	▲ 5.9	4.7
中国	6.9	6.8	6.1	1.2	9.2
日本	2.2	0.3	0.7	▲ 5.2	3.0
ドイツ	2.5	1.5	0.6	▲ 7.0	5.2
英国	1.9	1.3	1.4	▲ 6.5	4.0
インド	7.0	6.1	4.2	1.9	7.4
韓国	3.2	2.7	2.0	▲ 1.2	3.4
ロシア	1.8	2.5	1.3	▲ 5.5	3.5
サウジアラビア	▲ 0.7	2.4	0.3	▲ 2.3	2.9
トルコ	7.5	2.8	0.9	▲ 5.0	5.0
UAE	0.5	1.7	1.3	▲ 3.5	3.3
イラン	3.7	▲ 5.4	▲ 7.6	▲ 6.0	3.1
イスラエル	3.6	3.4	3.5	▲ 6.3	5.0
エジプト	4.1	5.3	5.6	2.0	2.8
イラク	▲ 2.5	▲ 0.6	3.9	▲ 4.7	7.2

1-B-2-12

世界上位 20 カ国と中東主要国の GDP (2020 年、at current price)

G7	G20	順位	国名	10 億ドル	%	累計
	*	1	中国	27,805	20.1%	
*	*	2	米国	20,290	14.7%	34.8%
	*	3	インド	11,321	8.2%	
*	*	4	日本	5,451	3.9%	46.9%
	*	5	ロシア	4,176	3.0%	
*	*	6	ドイツ	4,161	3.0%	
	*	7	インドネシア	3,778	2.7%	
	*	8	ブラジル	3,317	2.4%	
*	*	9	英国	2,976	2.2%	
*	*	10	フランス	2,860	2.1%	62.3%
	*	11	メキシコ	2,458	1.8%	
	*	12	韓国	2,308	1.7%	
	*	13	トルコ	2,258	1.6%	
*	*	14	イタリア	2,245	1.6%	
	*	15	サウジアラビア	1,869	1.4%	
*	*	16	カナダ	1,797	1.3%	
		17	スペイン	1,781	1.3%	
		18	エジプト	1,427	1.0%	
		19	イラン	1,411	1.0%	
		20	台湾	1,294	0.9%	75.9%
		21	タイ	1,294	0.9%	
	*	22	オーストラリア	1,279	0.9%	
	*	30	アルゼンチン	865	0.6%	
	*	33	南アフリカ	763	0.6%	
		34	UAE	723	0.5%	
		35	イラク	679	0.5%	
		52	カタール	345	0.2%	
		53	イスラエル	335	0.2%	
		56	モロッコ	317	0.2%	
		58	クウェイト	307	0.2%	
		65	オマーン	200	0.1%	
			全世界	138,352	100.0%	
			(EU)	18,377	13.3%	
			(G7)	39,780	28.8%	
			(G20)	101,978	73.7%	

¹ 2019年10月版については下記参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/ImfWeoOct2019.doc.pdf>

² World economy in intensive care

2020/4/15 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1659041/business-economy>